

[別記様式第 13 号]

浅口・笠岡圏域(岡山県) 総合水産基盤整備事業計画

1 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

浅口・笠岡圏域は、倉敷市西部地区、浅口市、笠岡市からなる圏域であり、漁船漁業やカキ養殖業、ノリ養殖業等の漁業が営まれている。各市とも水産業は主要産業の一つであり、倉敷市では市総合計画において「将来にわたり持続可能な魅力ある農業や漁業が営まれている」として、浅口市では市総合計画において「多彩な地域資源を活かした農林漁業の振興」として、そして、笠岡市では市総合計画において「海に臨む笠岡市の特色ある産業」として水産業の振興を図ることとしている。

関係漁業協同組合は、平成 14 年度には 10 漁協あったが、合併等を経て、現在は、黒崎連島漁協、寄島町漁協、大島美の浜漁協、笠岡市漁協の 4 漁協となっている。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

浅口・笠岡圏域は、東の高梁川河口域の水島灘から南西部で燧灘に接し、西側は笠岡諸島周辺の岩礁域で深場となっており、多様で豊かな漁場を形成していることから、漁船漁業やカキ養殖業、ノリ養殖業等の多彩な漁業が営まれている。

漁船漁業は、小型機船底びき網漁業や小型定置網漁業、さし網漁業等が行われており、エビやカニ、シャコ、サワラ、マナガツオ等の多種多様な魚種が漁獲されている。漁船漁業の生産量については、平成 26 年度は 1,056t であったが、平成 30 年度は 763t となり減少傾向である（農林水産統計）。

カキ養殖生産量は、平成 26 年度は 773t であったが、平成 30 年度は 733t となり、ノリ養殖生産量(倉敷市全域を含む)は、平成 26 年度は 1,201t であったが、平成 30 年度は 1,696t となっている（農林水産統計）。

資源管理は、小型機船底びき網漁業等で再放流サイズの設定や漁獲量の制限等に関する取組が行われている。特にガザミは、漁獲サイズの制限、軟甲ガザミの漁獲禁止、抱卵ガザミの漁獲禁止期間の設定、出荷かご数制限など積極的な取組が行われている。また、サワラの受精卵放流やガザミ、クルマエビ、ヨシエビ、オニオコゼ等の種苗放流を行い、水産資源全体の維持・増加を図っている。

圏域内には中間育成施設（寄島）を有し、放流魚の中間育成を行い放流効果の向上に努めている。

③ 水産物の流通・加工の状況

鮮魚については、本土の漁港と港湾の産地市場に陸揚げされ、セリを経て流通している。なお、笠岡諸島では、離島の漁港に一度水産物を集約し、漁獲物運搬船で本土の産地市場に運搬している島が多い。

養殖カキについては、ほとんどが殻付きカキとして直売されており、漁港から県内外へ流通している。

養殖ノリについては、各漁港や港湾にある加工場で裁断、乾燥等を行い乾ノリとして

製品化され、陸路で岡山県漁業協同組合連合会（以下「県漁連」という。）に集約される。集約されたノリは、定期的に開催される入札を経て、県内外に流通している。

④ 養殖業の状況

浅口・笠岡圏域では、カキ養殖業とノリ養殖業が行われている。

寄島町漁協及び笠岡市漁協の 2 漁協でカキ養殖が行われており、県全体の約 1 割が本圏域で生産されており、生産量は近年増加傾向である（令和 2 年度県調べ）。

ノリ養殖は黒崎連島漁協及び笠岡市漁協の 2 漁協で行われており、県全体の約 1 割が本圏域で生産されている（令和 2 年度県調べ）。養殖ノリは水揚げ後、各加工場で乾ノリに加工することから、製造工程から出荷に至るまでの衛生管理を徹底するため、漁期前に県漁連と県が各加工場の点検を実施している。乾ノリに加工されたノリは、県漁連に集約された後、入札にかけ値段を決定し、県内外に出荷される。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

圏域内の漁業就業者数は、平成 30 年度漁業センサスでは 317 人、経営体数は 224 経営体となっている。近年、漁業就業者数及び経営体数は減少傾向であり、今後もその傾向が続くことが予想される。

⑥ 水産業の発展のための取組

本圏域では、漁協での産地直売や「大島美の浜漁協朝市」、「外浦朝市」等の朝市を開催しているほか、道の駅「笠岡ベイファーム」での新鮮な地元産鮮魚の販売、「よりしま海と魚の祭典」や「よりしまかき祭り」といった海産物を中心としたイベントも催されており、地魚の P R が盛んに行われている。

「親子ふれあい地引網」や「海辺の教室」等のイベントを継続的に開催し、つぼ網等の漁業体験や獲れたばかりの魚介類を海鮮バーベキューで提供するなど、漁業や漁村についての理解を深め、魚食普及や漁村の活性化に取り組んでいる。

アマモ場について、平成 28 年度に笠岡地区漁業連絡協議会、岡山県、笠岡市、団体、企業等で美しく豊かな海づくりに関する協定を締結しており、関係団体や地域住民と連携して、アマモの種取りや播種に取り組んでいる。

また、漁場環境改善のため、小型機船底びき網漁船による海底ごみの回収や浜辺の清掃活動を行っている。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

漁港施設の老朽化が進行し機能低下が懸念されており、継続的な機能確保と、増大する対策コストの縮減および平準化が課題である。

高島漁港においては、外郭施設が不十分であることから、港内の静穏度が保たれておらず、特に台風などの荒天時には、船舶を他港に避難させるなど、船舶の安全な航行や係留に支障をきたしている。

寄島漁港の一部施設は想定される地震・津波・波浪に対する安全性が不足しており、被災時の漁港施設の機能確保、利用者、船舶等の安全確保に課題がある。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化 本圏域は、県西部の水産業を支える重要な生産拠点となっていることから、現状の機能を維持していく。		
(2) 圏域設定の考え方		
① 圏域タイプ	生産力向上型	設定理由；沿岸域の天然資源を活用した漁船漁業が盛んであり、四季を通じて様々な魚種が水揚げされている。
② 圏域範囲	生産力向上型	設定理由；漁船漁業を中心とした漁業形態である県西部を圏域範囲として設定した。
③ 流通拠点漁港	—	設定理由；
④ 生産拠点漁港	小原 寄島 金風呂 真鍋島	設定理由； 小原：1 種漁港であるが、圏域のノリ養殖生産拠点として中核的な役割を担っている。外郭施設整備は完了し漁船の安全性は確保されている。また災害時には漁港利用者の避難路や避難場所が確保されており避難対策が確立されている。現在、施設の老朽化が問題となっており、漁業者は今後も漁業を継続していく意向が強いことから、生産拠点に位置づけ漁港を整備・維持していく必要がある。 寄島：2 種漁港であるが、圏域の約 4 割を生産し、中核的な役割を担っている。外郭施設整備は完了し漁船の安全性は確保されている。災害時には漁港利用者の避難路や避難場所が確保されており避難対策が確立されている。現在、施設の老朽化が問題となっており、漁業者は今後も漁業を継続していく意向が強いことから、生産拠点に位置づけ漁港を維持していく必要がある。 金風呂：1 種漁港であるが、一定の陸揚げを有しており、離島の漁業拠点として中核的な役割を担っている。災害時

		には漁港利用者の避難路や避難場所が確保されており避難対策が確立されている。漁業者は今後も漁業を続けていく意向が強く、また離島の玄関口としての役割も果たしていることから、生産拠点に位置づけ、今後も漁港を整備・維持していく必要がある。 真鍋島：2種漁港であるが、一定の陸揚げを有しており、離島の漁業拠点として中核的な役割を担っている。災害時には漁港利用者の避難路や避難場所が確保されており避難対策が確立されている。漁業者は今後も漁業を続けていく意向が強く、また離島の玄関口としての役割も果たしていることから、生産拠点に位置づけ、今後も漁港を整備・維持していく必要がある。
⑤ 輸出拠点漁港	—	設定理由；

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	2,837
圏域の総漁港数	11
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	1

圏域の登録漁船隻数(隻)	511
圏域内での輸出取扱量(トン)	—

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	岡山県西部
対象魚種	カキ類
魚種別生産量(トン)	199(トン)
魚種別海面養殖業産出額(百万円)	435(百万円)

2 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

—

②養殖生産拠点の形成

—

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

高水温の影響により、ノリ養殖では養殖開始時期が従来から変化しつつあることや、漁船漁業では漁期が従来から変化しつつあることから、海域環境のモニタリングを強化する必要がある。

②災害リスクへの対応力強化

老朽化した漁港施設に対して、機能保全計画に基づく予防保全型の対策を行うことで、施設の長寿命化とライフサイクルコストの削減を図る。

高島漁港においては、船舶航行および荒天時の係留の安全性を向上させるため、外郭施設を延伸し、港内静穏度を確保する。

寄島漁港においては、災害時の漁港機能維持のため、地震・津波・波浪に対して安全性が不足している漁港施設に対して、耐震・耐津波・耐浪化工事を実施する。

離島航路の安全性向上のため、関連する漁港施設において、地震・津波・波浪に対する機能診断の実施を検討する。なお、実施時期については、緊急性の高い老朽化対策の完了後とする。

(3) 「^{うみぎょう}海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「^{うみぎょう}海業」による漁村の活性化

笠岡・浅口圏域は、笠岡諸島の多島美に恵まれた圏域であり、観光資源や水産資源が豊富であることから、体験型観光等の支援を図り、漁村交流人口の増加を図る。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

漁港施設の老朽化や水位上昇等の影響により、既存の施設では就労環境や生活環境に支障が生じていることから、施設の更新、及び整備を行い漁港全体の利便性向上を図る。

3 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
—	—	—	—	—	—

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
—	—	—	—	—	—

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
—	—	—

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
寄島 沙美 白石島 高島 真鍋島 横江	予防保全	水産基盤 整備事業	寄島 沙美 白石島 高島 真鍋島 横江	2 2 2 1 2 1	— — — — — —
寄島 高島	安全・安心	水産基盤 整備事業 地方創生港 整備交付金	寄島 高島	2 1	— —

- ・ 寄島漁港、沙美漁港、白石島漁港、高島漁港、真鍋島漁港、横江漁港等において、老朽化した護岸、防波堤、物揚場、浮桟橋等の漁港施設に対して、機能保全計画に基づく予防保全型の対策を行うことで、施設の長寿命化とライフサイクルコストの削減を図る。

寄島漁港においては、災害時の漁港機能維持のため、地震・津波・波浪に対して安全性が不足している防波堤等の漁港施設に対して、耐震・耐津波・耐浪化工事を実施する。

高島漁港においては、船舶航行および荒天時の係留の安全性を向上させるため、防波堤を延伸し、港内静穏度を確保する。

(3) 「^{うみぎょう}海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「^{うみぎょう}海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
寄島	活用促進	単県事業	寄島	2	—

- ・ 漁港の安定した活用のためランニングコストの削減を図り、水銀灯照明のLED化を推

進する。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
沙美	就労環境	水産基盤整備事業	沙美	2	—

- ・ 沙美漁港において、老朽化した浮桟橋等の漁港施設に対して、機能保全計画に基づく予防保全型の対策を行うことで、施設の長寿命化とライフサイクルコストの削減を図る。

4 環境への配慮事項

本圏域は、瀬戸内海国立公園内に位置することから、特に周辺環境の保全・調和が必要となっている。事業実施にあたっては、周辺の景観や生活環境等に十分配慮することとする。

5 水産物流通圏域図

別添のとおり